

リニューアルした「彩の国地鶏タマシャモ」

1 はじめに

本県のブランド地鶏「彩の国地鶏タマシャモ」は、1984年に埼玉県養鶏試験場（現農業技術研究センター）で大シャモ、大和軍鶏の他、産卵性の優れたニューハンプシャーを使用して作出した原種（雄）にロードアイランドレッド（以下、ロード）（雌）を交配して種鶏（雌）とし、これにさらに原種（雄）を交配したもので、大シャモ譲りの肉質の良さと大和軍鶏譲りの重厚な体型が特徴となっています（図1）。1991年以来県内の生産者へ供給し、現在埼玉県および東京都内の飲食店やホテルなどで利用されています。シャモの特徴を色濃く反映したプリプリとした歯応えや濃厚なうま味には定評があります。

しかし、作出から30年以上が経過し、限られた集団の中で血縁が濃くなってきました。そこで、2015年度から原種および種鶏の改良に取り組み、この度「彩の国地鶏タマシャモ」のリニューアルが完了しました。



図1 「彩の国地鶏タマシャモ」の作出と生産交配図

2 改良方法および結果

独立行政法人・家畜改良センターから増体・肉質が優れた純系シャモ831系統を導入し、タマシャモ原種に交配しました。また、産卵性が優れたロードを導入し、当所で従来から飼育しているロード（埼玉ロード）に交配しました（図2）。

これらの結果、種鶏の受精率およびふ化率が向上し、ヒナの生産性が改良前の

約 1.6 倍に向上するとともに、原種の体格（平均体重）も改良前の同日齢に比べ約 15% 向上しました。

原種改良後の「彩の国地鶏タマシャモ」（以下、改良鶏）の平飼い飼育試験では、140 日齢で雄の平均体重は 4,000g を超え、雌もほぼ 3,000g 近くになりました。鶏肉のうま味に関係する脂肪酸の一種であるアラキドン酸のモモ肉中の含量は、150 日齢で、市販若鶏の約 1.7 倍にもなり、180 日齢でもほぼ変わりませんでした。また、食味評価においても 150 日齢の改良鶏は 180 日齢と遜色なく、増体成績も考慮すると、改良鶏は従来より短期間で出荷可能と考えられました。

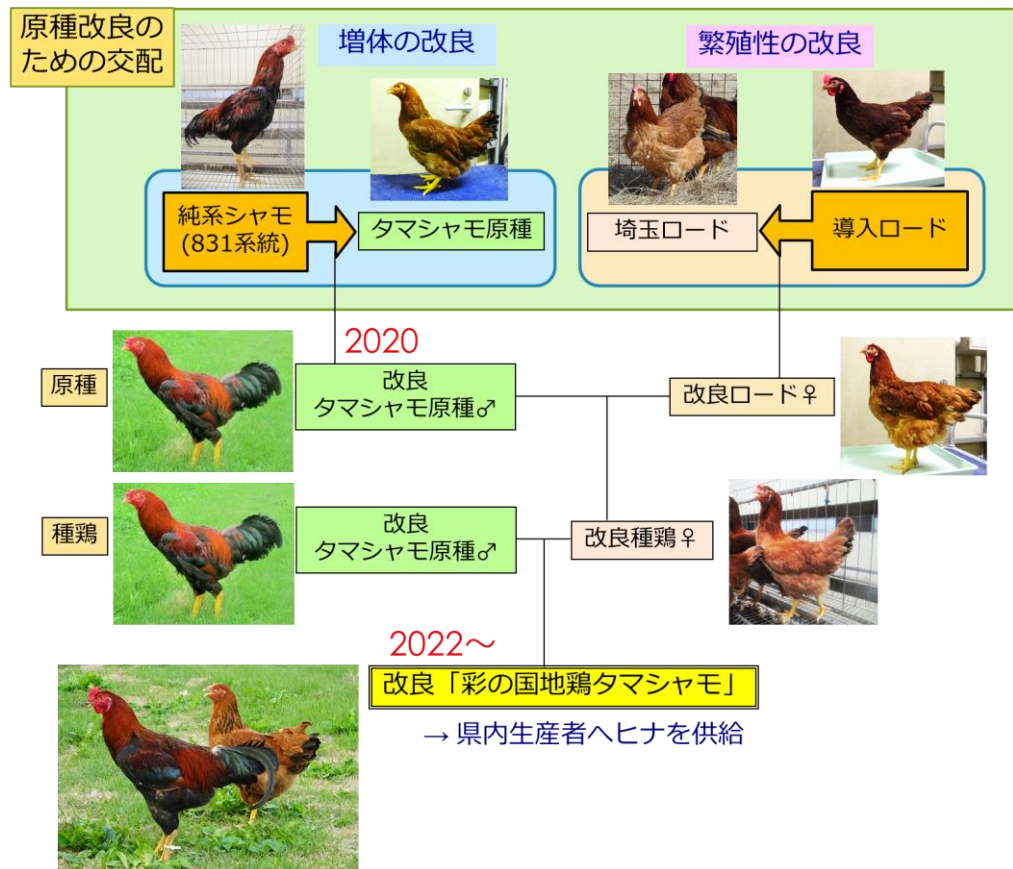


図 2 原種の改良と改良鶏の生産交配図

3 まとめ

リニューアルした「彩の国地鶏タマシャモ」は増体性に優れ、飼養期間の短縮が図れ、さらに食味も向上しています。2022 年 10 月から供給するヒナを全面的に改良鶏に切り替えます。今後は、飼育期間が短縮できるメリットを活かしたコスト低減などを進め、さらなる普及と需要の拡大を目指します。

【問い合わせ先】

埼玉県農業技術研究センター 養豚・養鶏担当
電話：048-536-0440 FAX 048-536-7019